



五葉の宝・人と自然の資源
を活かした地域づくり

住田町 五葉地区 五葉地域づくり委員会
会長 藤井 洋治

主な紹介内容

1. 五葉地区の概要

2. 地域ビジョン（めざす姿）

(1) 人との「交流」でにぎわいのある地域

(2) 人が「助け合う」安心して暮らせる地域

(3) 地域の宝を次世代に「つなぐ」地域

3. まとめと課題・今後の展望

五葉地区の概要

・岩手県の地図と住田町



・住田町と五葉地域の地図



北の玄関口：上有住
駅・滝観洞インター・
県南の高峰五葉山・
火縄銃鉄砲隊の里



地域ビジョンへの取組み

- **交流**: サツマイモ作り・収穫・文化祭・体験学習
 - ・イベント等(ふるさと創生大学との共催)
- **助け合い**: 防災福祉マップの作製・安心安全な暮らしと環境整備・遊休農地の活用
- **つなぐ**: 桜並木の整備・梅の植樹・特産品開発
 - ・伝承芸能(五葉念仏剣舞・五葉権現舞)

いわて中山間地域いきいき暮らし活動支援事業の活用

事業概要(令和2年度 事業費 1,394千円)

- 遊休農地と

地域資源の活用

: 特産品の開発

- 地域環境整備

: 見守りと環境整備

(安心安全な暮らし方)

- コミュニティーの活性化

: イベントや交流活動

遊休農地の活用(1)

・ サツマイモ

- ① 定植 6月上旬
- ② 収穫 10月上旬
- ③ 収穫量 約250kg
- ④ 約1kg 全戸に配布
- ⑤ ジャム・ペースト加工



遊休農地の活用(2)

- 梅の植樹(露茜)

- ① これまでに50本植樹
- ② 面積 100a
- ③ 6月と9月に草刈り



地域資源の活用(1)

- 柿の収穫

- ① 動物予防対策
- ② 11月上旬収穫
- ③ 柿酢の試作



地域資源の活用(2)

- イタヤカエデ樹液採取

* 30本から200ℓ採取

① 2月～3月樹液採取

② 加工品製作



特産品の開発

- サツマイモ

⇒ジャム・ペースト



- 梅(露茜)

⇒ジュース・梅酒の加工予定



- 柿 ⇒柿酢・干し柿

- イタヤカエデ樹液

⇒サイダー・ジュース・ビール・シロップ



世代間交流・イベント(1)

地域行事

- 川あそび 7月末
- 盆踊り大会 8月14日(毎年)
- ミニ運動会 10月上旬(スポーツの日)
- 文化祭 3月末(毎年)
- ふるさと創生大学との連携

世代間交流の進展

文化政策・まちづくり学校

略称：ふるさと創生大学



五葉地区民と県立大生との意見交換会



ふるさと創生大学との連携



- ① 川遊び
- ② 稲刈り体験
- ③ 収穫体験(大学生と合同)



世代間交流・イベント(2)

グランドゴルフ



クッブ大会



川遊び



三二運動会



世代間交流(3) 郷土芸能維持

- 五葉大権現舞



五葉念仏剣舞



世代間交流・イベント(4)

- 文化祭(春を呼ぶ文化祭)



河北新報 令和4年4月4日

「自然は宝」次々特産に

この人 このまち



五葉地域づくり委員会 藤井 洋治さん(72)

「これまでどのような試作品を作りましたか。」「地域交流のきっかけにしよう、4年前に植え始めたのがサツマイモ。栽培の手間が少な、子どもでも収穫できます。甘みを生かしたジャム作り、各世帯に配ったら好評でした。」「この家にもある柿にも注目しました。昔は干しておやつにしていましたが、今は放置され、駄書の一因になっています。付加価値を考え柿酢にしてみました。こががあり、まろやかな味わい。健康にいいと人気のヤーコンは飲みやすいジュースにしました。」「他に商品化を目指しているものはありますか。」「公民館近くに植えた梅は、よやくも美がなりそう。」「地産の五葉にちなみ、少なくとも五つの商品にしたい。」

「最初は地域課題を解決する町の補助金を活用した事業で交流行事を考えていきましたが、新型コロナウイルスの影響で集まれない。コロナ後を見据え、地域の特産品を作ることになりました。」

「試作品は、いずれも製造を業者に委託しましたが、将来は生産量を増やし、自前で加工したい。産業化できれば、地域に雇用が生まれる。子どもたちも体験できます。五葉地域には約120世帯、約300人が暮らしています。20年前の半分程度ですが、多くの人が活動に協力してくれています。試作を取っかかりにして、特産品作りを軌道に乗せ、地域の活力につなげたいです。」 (月曜日掲載)

ふしい・ようじ 1949年、岩手県住田町出身。日大卒。元教諭で定年後に帰郷し2018年4月から現職。本業は農家。

生産量増やし自前加工したい。産業化で雇用生まれる。

農業共済新聞 令和4年4月2日

放置果対策+資源活用 「小枝柿」の柿酢に期待

住田町の五葉地域づくり委員会

【東南部】「地域の資源を生かした商品を作って、地域の人に喜んでもらいたい」と話すのは、住田町の五葉地域づくり委員会の藤井洋治会長(72)。

同委員会では、2017年から同町の「小さな拠点づくり」の活動として、地域内の資源や遊休農地の活用に取り組んでいる。

気仙地方の特産「小枝柿」がある同地域では、住民の高齢化で未収穫のまま放置される木が増加。鳥獣害の恐れがあり、対策を探っていた。

同委員会では、大船渡市で柿酢などを製造する株式会社シャイン(桑野祐一代表取締役)に依頼し、今年1月に同社の技術で作った柿酢が完成。3月に住民に配布した。

藤井会長は「柿酢を味わってもらい、今後の参考にしたい」と話す。

(村上邦明)

「今はイタヤカエデの樹液を使ったサイダー作りに挑戦している」と藤井会長

まとめと課題

- 1 遊休農地の活用: サツマイモ・梅植樹の参加者増
 - 鳥獣被害防止の再検討
- 2 特産品開発: 未利用資源の活用、住民の意識醸成
 - 商品化までの検討
- 3 イベントの開催: ふるさと創生大学との連携で、
世代間交流の活性化
 - 合同行事等の検討

今後の展望

1 地域ぐるみの特産品開発:①マツフサブドウ ②ナツハゼ

○小・中・高校生は、地域創造学(品名やラベル製作)で

○高齢者は、智慧を活かした手仕事で、個人や団体で

○中間者層は、体力・機動力に応じて、生産や収穫等で

2 特産品の商品化をはかる:加工品や生産物の委託販売

○地元の特産品店での委託販売

○ふるさと創生大学から都市部での委託販売

五葉地区の将来ビジョン

- 1 **交流**でにぎわいのある地域
- 2 **助け合い**で安心安全な地域
- 3 地域の宝を次世代に**つなぐ**地域
- 4 ふるさと創生大学と**連携**する地域

ご清聴ありがとうございました。

